

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万5000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2025年11月28日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

子どもも、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！
ほいく誌購読の
輪を広げよう！
仲間を増やそう！

長野県学童保育連絡協議会の取り組み

一人の行動が、いつのまにか周りを動かしていく。佐久市の保護者が『日本の学童ほいく』に執筆し、全国学童保育研究集会で特別報告をしたときも、そんな“ふしぎな力”が働きました。最初に役員が「できることからやってみよう！」と動き出し、その姿を見た保護者が「じゃあ私も！」と手を挙げてくれたのです。気づけば学童保育全体が動き出し、子どもたちをまんなかにした“つながりの輪”がじわじわと広がっていきました。ひとつの行動がつぎの行動を呼び、笑顔の連鎖が生まれていったのです。

そんな広がりのおかげになったのが『日本の学童ほいく』。見た目は小さな冊子ですが、中身は全国の学童保育にかかわる人々の知恵と情熱がぎゅうっと詰まっています。ページをめくると、子どもたちの笑顔、指導員のまなざし、保護者の言葉があたたく飛び込んできて、「ああ、私たちのやっていることは全国の仲間とつながっているんだ」と勇気をもらえます。悩んだときに開けば「なるほど！」とヒントが見つかり、仲間と語りあうときには「これ、読んでみて！」と話題のきっかけになる。保護者に学童保育の魅力を伝えるときにも、これほど頼りになる本はありません。

私は長野県連協の活動のなかで、未加盟の地域やはじめて訪問する学童保育を訪ねることがあります。はじめての場所では「何から話そうかな…」と毎回悩むのが本音です。そんなとき、この冊子が大活躍。保護者や指導員のほっこりする話や現場のリアルが詰まっています。ページを開けば自然と会話が生まれます。

『日本の学童ほいく』は、私たちをつなぎ、広げる力を持っています。これからもこの一冊を片手に、子どもをまんなかにしたつながりをもっともっと広げていきたい——そう願っています。小さな冊子が生み出す大きな輪、そのまんなか、あなたも加わってみませんか？

学童保育をよりよく
するためにも『日本の
学童ほいく』を
みんなでもっと読み
広げよう。



日本の学童ほいく 2025年 9月号

特集 子どもが生活するところ
—— 学童保育の施設・環境

今回の特集では、学童保育の施設・環境を改善する取り組みの実際を交流し、「異なる年齢・発達の子どもたちが共に継続的に生活をする場」である学童保育の施設・環境を考えるうえで大切にしたい視点について学びあいます。



日本の学童ほいく

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万5000部

2025年11月28日

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

読者の声

和歌山県有田川町●指導員から

2025年6月号の「ずいそう」に掲載されていた高橋健さんの「おにぎりはいつから？」を読んでとてもおどろきました。

おにぎりは私も大好きですし、学童保育の子どもたちにも大人気です。学童保育のおやつのおにぎりは、おかわりの取りあいになるほど、子どもたちみんなが大好きです。

身近なおにぎりが1300年以上も前の奈良時代や、1500年前の古墳時代にもあったかもしれないと知って、とてもおどろきました。昔の人もおにぎりを握っていたと想像すると、なんだか親しみを感ずいます。

これからもみんなでおいしく、楽しく、おにぎりをいただきたいです。

『日本の学童ほいく』2025年9月号「読者のひろば」より

山形県寒河江市●指導員から

2025年6月号の特集「子どもの気持ちに気づく——日々の関わりの中かで」に掲載されていた赤木和重先生の「子どもの気持ちは『わかる』ではなく『気づく』もの」を読みしました。

『子どもの気持ちを理解しなければ』『子どもに教えなければ』と思いつぎず、いつもの生活を同じように、できればちょっといいねに過ごしてくださいと赤木先生が記されていたことがとても印象的でした。

「そうだなー」と気づかされることが多く、私自身が少し前のめりに子どもと関わってしまっていたなと反省することも多くありました。

肩の力を抜きながら、いつもの生活を大切に、子どもたちと過ごしていきたいなと思います。

『日本の学童ほいく』2025年9月号「読者のひろば」より

私とほいく誌の出会い、三多摩学童保育連絡協議会との出会いと重なります。ほいく誌担当がピックアップした記事を、各市連協の参加者とともに読みあわせていきます。はじめて参加した読みあわせは、ドキドキものでした。どの行が回ってくるんだろう！ と思いながら、読みあわせで穴が開く勢いで記事を読んだものでした。

心あたたま話、子育ての悩み、父母会運営、聞いたことのないむずかしい用語、制度……。読みあわせで集中しているせいか、一人で読むより腑に落ちる感じ、あるあるといった共感が生まれるように思い、購読もはじめました。

いまでは、子どもも大きくなり、持ち回りのほいく誌読みあわせ担当をすることも。ほいく誌を読みながら、この話いいね、読みあわせしたいなと頭の片隅で考えながら読んでいます。

私が地味に好きなページは、絵本のページ。懐かしい絵本に出会うと記憶がよみがえり、読んでみたい新しい絵本にも出会えます。

ほいく誌を読み物として楽しむ一方で、調べものとしても活用したいのですが、探すのが大変！ キーワードを入れると、該当する号を教えてくれるインデックス機能があるといいなと思っています。毎月のほいく誌を読むだけでなく、昔の号を取り出して活用するのもすてきななんて思っています。

私と「ほ・い・く・誌」

読者リレー執筆
東京都日野市から保護者OBの伊藤雅子さん

